

地域と協同の

2016年7月25日発行

143号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

「三重県における協同組合間提携について」

西川幸城（地域と協同の研究センター代表理事・コープみえ理事長）

2012年国際協同組合年をきっかけとして、翌年に三重県協同組合連絡協議会が発足しました。参加組織は、農協中央会・漁連・労福協・中小企業団体中央会・生協連など14団体で構成されています。2016年度に計画している主な取り組みを紹介致します。

一つは、今年で3回目となる三重県総合文化センターの「ワンコインコンサート」への協賛です。国際協同組合デーの7月に行われるコンサートを協賛するとともに、ホールに隣接された展示会場にて各協同組合の紹介を行っています。回を重ねるごとに入場者は増え、今年は約1800名となり、多くの県民の方に各協同組合の活動を知って頂く機会になりました。コンサートの冒頭で館長から協同組合について丁寧に紹介して頂き、来場者の理解が深まるように工夫がされています。

二つ目は、参加団体の若手の職員が互いの協同組合について学びあう企画です。同協議会が発足した当初は、それぞれの役職員が交流することを目的に活動報告を中心とした集会を開催して来ましたが、そして昨年からは対象者を若手の職員に限定し、互いに学びあい交流するなかで職員同士のつながりを作ることを目的に、内容を変えました。改めて協同組合の理念や歴史について学び、ネットワークをつくることにより組織をこえた輪ができました。

三つ目は、今年初めて取り組むシンポジウムです。現在企画内容を事務局で検討している段階ですが、テーマを「震災とBCP（Business Continuity Plan）、協同組合の役割」とし、組織外にも参加を呼びかけ、震災時における協同組合の果たすべき役割について学びあうことを検討しています。これらの連携を通して事業を通じても交流が進み、協同の良さを内外に深め合うことが着実に広がりを見せています。今後は、他県での協同組合間提携の実践についても学んで三重県での取り組みに活かしていきたいと考えています。



CONTENTS

巻頭「三重県における協同組合間提携について」	1
西川幸城（地域と協同の研究センター代表理事・コープみえ理事長）	
2016年国際協同組合デー記念行事	2
地域社会の持続可能性をめざして協同組合間協同の模索	
岐阜地域懇談会世話人会活動から	4
みんなの森・ぎふメディアコスモスの訪問	
情報クリップ	5
企画案内「2016年第62回 in 石川・福井 日本母親大会」	8
書籍紹介「ローカルに生きる ソーシャルに働く	8
新しい仕事を創る若者たち」	

研究センター 7月の活動

7月1日(金) 常任理事会	7月6日(水)国際協同組合デー記念行事
7月7日(木) 寄付講義⑫	7月9日(土)共同購入マイスターコース①
7月13日(水)くらしを語りあう会	7月14日(木)寄付講義⑬
7月15日(金)研究フォーラム職員、生協の(未来の)あり方研究会	
7月16日(土)政策提言公開学習会、第2回理事会	
7月18日(月)顧問懇談会打ち合わせ	
7月20日(水)第四期組合員理事ゼミナール世話人会	
7月21日(木)寄付講義⑭	7月22日(金)第8回協同の未来塾
7月23日(土)岐阜地域懇談会「プチフォーラム」	
7月25日(月)NEWS編集委員会	7月26日(火)ニュース発送
7月27日(水)研究フォーラム環境	7月28日(木)寄付講義(最終)
7月30日(土)共同購入マイスターコース②	
7月31日(日)生協の(未来の)あり方研究会	

2016年国際協同組合デー記念行事 地域社会の持続可能性をめざして 協同組合間協同の模索



文責：伊藤小友美

7月6日（水）愛知県岡崎市のJA愛知研修所にて、113名の参加で国際協同組合デー記念行事が開催されました。愛知県では2012国際協同組合年以降、JAグループと生協グループの協同組合間協同を推進する企画を開いており、今年2月には愛知県農協中央会とコープあいち、大学生協連東海ブロック、南医療生協、北医療生協の共同学習会を開催し「ブループリントとICA総会で議論されていること」を学びました。2016年国際協同組合デー記念行事としての本企画では、協同組合間協同を県内の地域ごとに推進することを目的に、各協同組合の役職員がお互いの事業や活動に学び、交流（顔合わせ）する場として開催しました。全体会では4組織から事例報告があり、その後地域別分散会（①尾張東部・知多地域、②その他の尾張地域、③西三河地域、④東三河地域）を開催しました。以下、全体会の事例報告について概要を報告致します。

◆◆ 「食と農」 JAの支店活動 ◆◆

JAあいち中央・杉浦義彦組織生活部課長

我々JAあいち中央は平成8年に、碧南市、刈谷市、安城市、高浜市、知立市の碧海5市のJAが合併し誕生しました。支店を核とした活動に重点を置き、地域組合員との関係を維持・再構築することをめざして、各支店に支店運営委員会をおき、信頼される支店づくりを展開し、機能整備に取り組みました。組合員の意見要望を集約し、円滑かつ活発な運営をめざしました。

支店祭りは、支店運営委員会が主体となって運営しています。会場は支店の駐車場を利用し、農産物の展示即売会、団子や焼きそば等の販売、地元農産物のPR等を行っています。支店祭りの目的としては、地産地消、農産物への理解、食農教育、交流を深めることがあります。

刈谷地区では、地元の幼稚園、保育園、小学校の園児、児童が肥料袋で大根栽培をして、支店祭り当日に大根の品評会と表彰式を行っています。刈谷地区は大根の産地で、地元の農産物を知るにはいい機会です。9月には、各園各校に肥料袋と種を配布し、種まきをします。育った大根を選抜して、支店祭りで品評します。こうした取り組みによって、食と農に対する理解が深まっています。

空き缶、空き瓶の回収活動は、支店運営委員会を中心に女性組織や利用組織、職員で参加しています。8月最終土日に統一し、市町村の清掃活動と合同でやる場合もあります。秋の稲刈りシーズンの前に行い、農作業を安全に行ってもらいたいということから、8月に実施しています。

支店だよりは、すべての支店が毎月出しています。支店での活動の情報発信として、職員や組合員の紹介や、イベントの告知、開催の様子等の写真や、参加者の感想も紙面に載せています。事業、商品のPRは最小限にとどめています。

さまざまな支店活動を行い、組合員との関係強化を図っていますが、組合員同士、または職員と組合員がお互いの顔と名前を覚え、今まで以上に親近感、信頼感が増

すようになりました。しっかりとつながり作りを行うことが大事だと考えています。決して地元から離れることなく、組合員のよりよい生活のために、協同組合組織の理解を深める活動が重要だと考えています。



◆◆ 「医療・介護・福祉」一人の困った！を暮らしの中で - 南医療生協の「おたがいさま運動」広げて - ◆◆

南医療生協・松下繁行非常勤常務理事

地域で奮闘しています。一人の困った！にどう寄り添うか。その状況に触れながら、どう協同組合とつながっているかを話したいと思います。

実は、私は18年ぶりに名古屋に帰って来ました。企業戦士で、戦い疲れて我が家へ戻った途端、びっくりしました。50代での孤独死があったのです。新聞がたまっていて、救急車を呼びました。周囲に子どもの声が聞こえず、どこへいっても年寄りばかり。孤独死、老々介護、そういう状況ではいけないと思い、地域に寄り添うことをしたいと思いました。

南医療生協で発行している「健康の友」という冊子の編集委員長をしています。5万部作っていますが、9割が手渡しで、約2800人の方が配っています。班会を11779回開催しています。

南医療生協には「良い医療・良い介護」の4つの指標があります。①社会的水準の確保がされている ②不必要なことは行わない ③納得と同意に基づいている この3つはどこの医療機関でもあると思います。4つ目を2011年度の総代会で確認しました。「④地域に支えあい助け合いのネットワークがある」です。これをやらないと、総合的な地域医療はできません。

一人の困ったに寄り添い支え合う仕組みがあります。そのひとつは、1233班の班です。地域のたまり場があり、食事会やサロン、子育て広場もあります。63の事業所があります。おたがいさまの仕組みができあがりつつあり、職員、組合員の「おたがいさまサポーター」は約1100人います。発見した困りごとは、おたがいさまシートに書きます。地域支えあいセンターを経由して、出動する仕組みです。おたがいさまシートを書いた途端、その情報は該当班、該当組織へ行き、出動します。4年間に502件、去年は196件、90%解決しています。

今年度はさらに増えると思います。

「ゴミを出せない」「草がぼうぼう」「網戸は穴だらけ」等、くらしの不安が多いのが現状です。高齢者が圧倒的に困りごとの主体です。女性だけでは任せられないと思いました。朝からテレビを見て、散歩している男たちがたくさんいます。一軒一軒をまわり、「男塾」をつくりました。今では、名南ブロックでは、男塾が主役です。建具も直します。ガスの不具合も直します。巧みの技を持っているものが出動します。男はすごい。「しゃあない、行くぜ」と出動し、帰りには、「町の役に立っている。お礼言われてうれしいわ。」「俺達はくらしまで変えるんだ」と感激の声が出ています。

地域全体で支えることが大切です。そのために拠点をつくろうと考えました。空き家を利用し、「おたがいさまの家」づくりをすすめています。そこでは、支援する人が集まってサロンをつくり、買い物難民のための買い物の場もつくります。生協がなくては、地域包括ケアは成り立ちません。さらにがんばっていきたいと思います。

◆◇ 「次世代につなぐ」 ◇◆

大学生協連東海ブロック・石橋一郎事務局長

1) 食の商品開発プロジェクト、食の連続講座に参加

愛知県立大学 竹之内良介さん

食の連続講座に参加しました。野田味噌商店とデリーファームと大学生協連3者のプロジェクトで、大学生協で提供できる卵料理を開発しています。試食の準備や味付けを学生が手伝ったりしました。

食の連続講座では、楽しく食べる企画を開催しました。作り手のこだわり、食にたいする思い、若い人への思いも聞き、ちゃんと食べればつくる力もつくことを学びました。食は生きるために不可欠。そこからちゃんと生きるにつながります。

2) 大学生における協同の可能性について

愛知教育大学 田村安花利さん

共済セミナーを開催しました。1年生が主で、給付事例やたすけあいアンケートを見て、共済に込められた想

いやたすけあいを感じるワークを行いました。アンケートには「自分のミスにより発生したケガ」という表現があり、感謝していて、あらためて大切さを知りました。ただ単にお金がもらえる制度ではないことを実感しました。

学生自身がふだん協同を意識することがないだけで、活動していることがたくさんあります。しかし理解ある学生ばかりではありません。体験とか実感することを考えないといけない。協同について、心の中に据えて活動する大学生を増やしたいと思っています。

◆◇ 「食と農」「あいちを食べよう日本の食をたいせつに」運動と協同組合間連携 ◇◆ コープあいち・中野正二理事長補佐

「あいちを食べよう日本の食をたいせつに」運動、合併を機に展開しました。背景には、2007年から2008年の餃子事件、食品偽装事件の噴出があります。食への不安、生協への不信をどう克服するかが大きな課題でした。生協は組合員が主人公です。それを実感できる取り組みにしたいと考えました。餃子事件ではっきりしたのは、国外に食糧を依存している状況です。愛知は、全国でも生産高にすれば6番目に位置する農業県で、生産されたものを上手に加工して食べる技術をもつメーカーもたくさんあります。農商工連携を図り、消費者がきちんと関わることで、消費者が主役の食文化を発信できると考えてきました。耕畜連携では、飼料米の活用をすすめてきました。県内のJAさんとの関係も、広がりを持つことができました。

課題になったことを2つ挙げます。ものの取引はすみましたが、お互いの存在、生協の組合員からみれば、生産者の姿が見えているか。取引のプロセスの中で明確にしきれない側面があることと、需給バランスのリスクが双方でぶつかりあうこともある、ということです。

現実的に、組合員と生産現場での交流では、たいへん生産者、JAのみなさんにご苦労いただいていることが多い。産物が売れることにつながらないと、生産者が実感として生協とやっていてよかったとならない。実感のわかる取り組みにしないといけない。県内農業の振興、相互の事業メリットをつくることがないと、なかなか一緒にやろうとなりません。今後も努力を続けていきます。

協同組合は、ひとりひとりが主人公です。参加と役立ちをどこまで広げられるか、それを貫けるかが大事です。JAにしても、生協にしても総合力をテーマにしています。得意な分野を補完しあって成長できるのが協同組合。それぞれの地域での存在を知り合ひましょう。職員同士から始まるかもしれないが、組合員同士が関係を確かめられるように努力をしていきましょう。

岐阜地域懇談会世話人会活動から

みんなの森・ぎふメディアコスモスの訪問

「根から知を 枝葉でふれあい花さかせ 明日への種を創り育む」

地域と協同の研究センター・岐阜地域懇談会世話人会は6月30日の午後、2015年7月オープンした「みんなの森・ぎふメディアコスモス」にて、館長さんのご説明をお聞きました。

みんなの森・ぎふメディアコスモスはそのユニークな外観(設計は伊藤豊雄氏)とともに、運営のコンセプトもこれまでの市の施設にはない多様な要素が盛り込まれていました。

市民が日常的に集まれる場所として、当初予定していたより、オープン後かなり早い時期で利用者人数が増えているようです。今回の取り組みはその理由をおききし、情報発信することでした。

もともとこの場所は岐阜大学・医学部の敷地でした。岐阜大学の統合移転にともない、跡地利用の検討がはじまりました。およそ10年前の2004年ごろからです。市民の意見をあつめたり、ワーキンググループの作業をおこない、パブリックコメントなどによりその基本構想がかたまり、オープンしました。

名誉館長はノーベル物理学賞を受賞された益川敏英氏が就任されました。

みんなの森・ぎふメディアコスモスの理念は「根から知を 枝葉でふれあい花さかせ 明日への種を創り育む」。「多くの人に役立つ知識にあふれ、様々な活動を通じた人と人の交流を生み出し、地域の文化とより良い地域社会の創造につながる都市の未来を築く礎となることを目指します」としています。



写真は、天井に使われている木製(ひのき)の格子構造で同時に屋根材としても使用されています。

二階は岐阜市立中央図書館。その本の展示のしかたもいろいろ工夫されています。絵本の読み聞かせコーナーや、グループ学習のための個室(要予約)なども併設されています。

一階は「ドキドキ」エリア[文化の拠点]と「ワイアイ」エリア[絆の拠点]に分かれ、230席のみんなのホールやみんなのギャラリー(有料)などを利用することができます。また市民活動として団体登録すると、印刷補助や使用料の減額などの支援を受けることができ、すでにかかなりのグループが登録されているようでした。また集まる規模(15~100人)に応じたスタジオがいくつかあります。ただし、予約満杯で利用には時間がかかるようです。オープンスペースでは、市民活動支援ブースや交流談話スペース、ワイワイサークル(当日は中国語サークルが開かれました)や、移動可能なワイワイ畳などがあります。…写真は「あつまるスタジオ」(25人収容)での世話人会の様子で、中央のかたが館長さん。



また、館内にはコンビニエンスストアとスターバックスのコーヒー店もあり小さなお子さんを連れてお母さんも気軽に立ち寄れる場所として、人気があるようです。

みんなの森・ぎふメディアコスモス

住所 〒500-8076 岐阜県岐阜市司町40番地5

TEL 058-265-4101 FAX 058-265-4121

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価/ページ数
<p>▶親から子への思いと安心を大切に するCOOP共済</p> <hr/> <p>NAVI 2016. 7 772</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 親から子への思いと安心を大切に するCOOP共済</p> <p><つながろうCOOPアクション情報> 生協くまもと <コープのある風景> パルシステム山梨 <こんにちは！生協女子ですっ！> 郡山医療生協 大野裕美子さん <元気な店舗の取り組みを学ぶ> とくしま生協 コープ北島 <宅配・現場レポート> コープこうべ <生協大好きママコブ山さんの 教えて！CO・OP商品> CO・OP鹿児島県大隅産 うなぎ蒲焼 <思いをかたちにコープ商品> CO・OPフェアトレード生産農園限定セイロン茶 <今月のコープで笑顔がキラリ> いわて生協 <エッセイ> 東京⇄パース 小島慶子の8000キロ通信 空からひとりごと <日本全国ふだんのくらしを支えたい> コープさっぽろ <この人に聴きたい> 俳優 羽田 美智子さん <ほっとNAVI> 福島県生協連 コープえひめ</p>	<p>2016年 7月 A4版 36頁 定価360円</p>
<p>▶食料消滅！？</p> <hr/> <p>社会運動 2016. 7 423</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集①食料消滅！？</p> <p>① 食糧危機の到来 飢餓を忘れていた「幸福な時代」も終わりを告げようとしています TPPが破壊する食と農 貿易の自由化に向けたエンドレスゲーム アジア太平洋資料センター事務局長 内田聖子 水と石油の枯渇が食糧危機を引き起こす 市民セクター政策機構 専務理事 白井和宏 エネルギーアナリスト 大場紀章 グローバルウォータージャパン代表 吉村和就</p> <p>② 世界を変える「食べ方」 すべての人に食べ物を。 「フードバンク」が広げるセーフティネット セカンドハーベスト・ジャパン アメリカの農業政策が生み出す肥満問題 生活クラブ原則の有効性を考える 日本女子大学教授 植田敬子 輸入牛肉に追いつめられる「国産牛」 市民セクター政策機構 専務理事 白井和宏 「食農共育」が社会を変える コミュニティスクール・まちデザイン理事長 近藤恵津子 「食問題」を見て考える DVD作品&サイト紹介 編集部</p> <p>特集②安保法制が壊す日本の「信頼」</p> <p>中東問題の理解の仕方 千葉大学教授 酒井啓子 紛争地域から考える安保法制の問題点 日本国際ボランティアセンター代表理事 谷山博史</p> <p>医療と介護をつなぐ訪問看護の重要性 「暮らしの保健室」の取り組みから 白十字訪問看護ステーション代表 秋山正子 おしどりマコの知りたがりの日々・レッツ想定外！ 第3回 私が東電記者会見に乗り込む理由（ワケ） 芸人・記者 おしどりマコ</p>	<p>2016年 7月 B5版 126頁 定価700円</p>

<p>▶日本協同組合学会 第35回大会</p> <hr/> <p>協同組合研究 2015. 12 第 3 5 巻 第 1 号</p> <p>日本協同組合学会</p>	<p>特集 日本協同組合学会第35回大会 シンポジウム 未来社会に向けた協同組合の選択：サステナブルな「協同のプラットフォーム」づくり 座長解題 北島健一 第1報告 韓国における協同組合運動の新展開 協同組合基本法によって拓かれる新しい協同 金 亨美 第2報告 多様な市民アソシエーションとガバナンスとしての新しい協同 馬頭忠治 第3報告 社会的・連帯経済の担い手としての協同組合 富沢賢治 第4報告 愛知における「生活協同」と生活協同組合の役割・制約・可能性 －愛知における実践をふまえて－ 向井忍 地域シンポジウム 地域の暮らしと協同組合の役割 ー岐阜県下の実践ー 荒井聡 論文 社会貢献型農産物に対する消費者の意識と購買時の評価 ーコープしがが取り組む飼料米給与鶏卵を題材にー 山野薫 研究論文 生協における女性職員の人材マネジメントに関する課題 :ワーク・ライフ・バランスの観点から 熊倉ゆりえ 介護系ワーカーズ・コレクティブのメンバーが抱えるトリレンマ問題 :NPO法人Kの分析から 橋本りえ 明治初期の類似保険と共済事業の萌芽 相馬健次 組合員の営農指導ニーズに対応した出向く営農指導の変遷と機能変化 ～JAきたみらいを事例として～ 河田大輔・小林国治・正木卓・山内庸平 書評 現代公益学会編『東日本大震災後の協同組合と公益の課題』（向井忍）</p>	<p>2015年 12月 B5版 152頁 定価2160円</p>
<p>▶JAグループ 「輸出拡大」の挑戦 ～農業者の所得拡大を図る</p> <hr/> <p>月刊 J A 2016. 7 737</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 JAグループ「輸出拡大」の挑戦 ～農業者所得拡大を図る 農林水産業の輸出強化を目指す 農林水産省 食料産業局 輸出促進課 国産農畜産物の輸出拡大に向けた取り組み ー新たな需要開拓を通じた農業者の所得増大 JA全中輸出・GI対策室 オピニオンリーダーに聞く 田崎真也 ・きずな春秋 ー協同のこころー 新しい女性指導者群を育成 童門冬二 伊勢志摩サミットにおけるJAグループの取り組み JAグループ三重・JA全中広報部 JAトップインタビュー 新たな園地で地域の発展にかける 柴田篤郎（静岡県JAしみず 代表理事組合長） ・展望 JAの進むべき道 組合員と共に生きる、地域と共に生きる 加賀尚彦（JA全中常務理事） ・海外だより 連載 62 [D.C 通信] アメリカ上下両院選挙情勢とTPPへの影響 中村岳史 トピック 第66回“社会を明るくする運動” ～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～ 法務省保護局更生保護振興課 第29回広報活動優良JA紹介 総合の部 準大賞 JAぎふ(岐阜県)</p>	<p>2016年 7月 A4版 50頁 年間購読料 4,800円 (送料込)</p>
<p>▶青果物の消費をめぐる 動き</p> <hr/> <p>生活協同組合研究 2016. 7 486</p> <p>(財) 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 都市農業の今後を支える地域のネットワークづくり 小林新治 ▶特集 青果物の消費をめぐる動き 青果物消費の実態と課題 大浦裕二 農産物の消費・流通・生産における変化と対応課題 菊池宏之 産直の次なる挑戦 ーコープネット事業連合へのインタビューからー 宮崎達郎 「野菜・果物の消費行動に関する調査結果～2015年～」 から読み解く最近の消費行動について 青柳靖元 コラム1 ある週の東京都内4生協の野菜セットを見る 鈴木岳</p>	<p>2016年 7月 80頁 B5版</p>

	<p>コラム2 野菜の栄養価低下は本当か -『日本食品標準成分表』を読む- 山崎杏菜 植物工場の栄光と挫折 -甘えの構造から脱却できるのか- 石堂徹生 コラム3 スペイン・アルメリアの奇跡 -大規模ビニールハウス栽培の光と影- 鈴木岳</p> <p>■研究と調査 漁協の制度的特質と行動様式 -守るべき点・変えるべき点は何か- 加藤和俊</p> <p>■時々再録 地震との共生 -南海トラフ地震対策取材団に参加して 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで（2016・5） 松本英明・小川節子・川口啓明</p> <p>■新刊紹介 佐々波幸子『生きてごらん、大丈夫』 傘木誠</p>	
<p>▶「地域包括ケア研究会 2015年度報告書」を複 眼に読む</p> <p>~~~~~</p> <p>文化連情報 2016. 7 460 日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー（29） 5年連続特A受賞の伊賀米コシヒカリ 辻村和郎 消費税増税延期と社会保障 伊藤幸夫 院長リレーインタビュー（290） 女性骨盤底医学センターを充実させたい 西澤理 二木学長の医療時評（139） 「地域包括ケア研究会2015年度報告書」を複眼的に読む 二木立 震災に負けない！奮闘する熊本の農協・厚生連 福地宏 災害後インフラとしての農協福祉機能を考える 東公敏 熊本地震に周東総合病院のDMATが出動しました 南秀樹 准組合員制度と総合保障を守る道すじ 東公敏 農村医学は世直し運動！私の歩んできた道(16) 「健康から医学」具体化への道 小山和作 医食農同源 医療の現場を食から支える（最終回） クリニカルサービス・・・チーム医療への参画 石川知子 地元の食材を使った健康料理で銀賞を獲得 横田綾敦 病院建築と環境（最終回） 地球環境保全に貢献する病院建築 長澤泰 地域産業との連携による再生エネルギーの新展開（最終回） 地域産業と再生可能エネルギーの連携の展望 大平佳男 臨床倫理メディエーション（3） 臨床倫理問題における実践的なアプローチ 中西淑美 デンマーク&世界の地域居住（86） オランダの革新⑦ ビュールトゾルフ 松岡洋子 熱帯の自然誌（4） キナバル山 安間繁樹 コペンハーゲン・アマー地域の認知症の在宅ケア（3） 認知症アドバイザーの役割 小磯明 東京で農業を始める 瑞穂町現地研修会報告 熊谷麻紀 医療材料マスター院内コード統一化 刈谷由二 ●野の風● インド洋の真珠 ラランガー・セナラット 線路は続く（100） 守礼と平和の邦 沖縄の鉄道 西出健史 最近見た映画 裸足の季節 菅原育子</p>	<p>2016年 7月 B5版 88頁</p> <p>文化連情報 編集部 03-3370 -2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

【お詫びします】
 地域と協同の研究センターNEWS142号の情報クリップでご紹介した「にじ2016・夏号」の内容は、事務局編集の誤りにより、2015冬号を掲載していました。夏号は今後、改めて紹介させていただきます。申し訳ございません。

企画案内

生命を生み出す母親は生命を育て生命を守ることを望みます

2016年 第62回 in 石川・福井 **日本母親大会**

日本母親大会は日本の反核平和の女性運動を基盤とした社会運動・教育問題の大会である。「原水爆禁止」「子供の命を守る」の訴えを原点としている。
 母親を「母性を持つすべての女性を対象にした呼び名」と位置づけ、女性団体・社会運動団体・労働組合・教育問題を扱う市民団体などで構成される実行委員会の主催。開催地教育委員会やマスメディアの後援により毎年開催される。大会の出席資格はなく男性でも、未婚でも、児童でもだれでも参加でき、講師も男女を問わず招聘している。

第1日目 問題別集會 8月20日(土) 12:30~17:00

- [金沢会場] ・若い世代の企画(金沢歌劇座) ・子供と教育(石川県教育会館)
- ・食・農業・TPP(金沢市文化ホール) ・平和と民主主義(石川県文教会館)
- ・暮らし・社会保障(金沢歌劇座)

第2日目 全体集會 8月21日(日) 10:00~15:00

[石川県産業展示室 4号館] *オープニングと加賀獅子舞
 記念講演「憲法公布・女性参政権行使70年-いのち輝く平和な沖縄・日本を」
 講師 島 洋子さん(琉球新聞社編集局政治部長)

主催：第62回日本母親大会実行委員会 TEL03-3230-1436

開催：石川県母親大会国交委員会(TEL076-216-8022) 福井県母親大会実行委員会(TEL0776-50-2753)

協力：北信越各県母親大会実行委員会(長野・新潟・富山)

書籍案内



シリーズ田園回帰5 **ローカルに生きる ソーシャルに働く**
新しい仕事を創る若者たち
 著者：松永桂子 尾野寛明 編著 定価 2,376円 (税込)
 発行：2016/06 出版：農山漁村文化協会 判型/頁数 A5 240p

いま地域をベースに活動する20歳代後半から30歳代くらいの世代からは、地域社会に貢献するというよりも、自分がしたいことに地域の課題解決の方向性をすり合わせていく—そんな生き方、働き方がみえてくる。そうした社会のデザイン能力が花開く場として地域が受け皿になっている。農山村や地方都市、大都市の下町で活躍する一人ひとりの「なりわい」づくりに光を当て、そのライフスタイルや価値観を浮き彫りにする。若者を地域の担い手として育成する中間支援組織についても詳述。
 農山漁村文化協会ホームページより

2016年7月25日発行(毎月25日発行)
 定価200円
 (税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
 発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
 代表理事 西川 幸城
 〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39
 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
 E-mail AEL03416@nifty.com
 HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 8月の活動予定
 8月1日(月)ものづくりの思いを語る会打ち合わせ
 8月2日(火)研究フォーラム食と農 8月4日(木)常任理事会
 8月6日(土)政策提言チーム
 8月8日(月)三重地域懇談会三重のつどい
 8月9日(火)岐阜地域懇談会世話人会「石徹白訪問」
 8月20日(土)研究センター顧問懇談会
 8月23日(火)国際協同組合デー記念行事相談会
 8月25日(木)三河地域懇談会世話人会、研究センターNEWS発送
 8月26日(金)常任理事会 8月27日(土)政策提言チーム
 8月29日(月)尾張地域懇談会世話人会
 8月30日(火)研究フォーラム地域福祉